



GIFU FUTURE NEWS

2040
November
21

市民ワークショップから生まれた奇跡 全国注目の『ぎふモデル』

2025年、市民ワークショップから始まった壮大な挑戦がついに実現を迎えた。岐阜市が掲げた【生涯現役・ピンピンコロリが実現できるまち構想】は、15年の歳月を経て、超高齢社会における理想的な都市モデルとして結実している。現在、全国から年間150件を超える視察が岐阜市を訪れ、『ぎふモデル』の導入検討が進んでいる。人口減少社会における持続可能なまちづくりの答えがここにある。

Topic 01 スマホ一つで健康管理 市民の8割が利用するアプリ

岐阜市が段階的に導入してきた、健康・福祉・医療サービス統合アプリ『ぎふ健康ナビ』の利用者が、ついに市民の8割を突破した。かつては分散していた各種サービスがアプリで完結し、予防医療と連動したポイント制度により、市民の健康寿命は全国平均を2.3歳上回る結果となっている。

「スマホ1つで全て解決」と話すのはTさん（70歳・女性）。かかりつけ医との連携も密になり、家族と健康状態を共有できるため安心感が大きいという。



Topic 02 免許返納者の外出頻度2倍



岐阜市の新交通システムが、高齢者の移動課題を劇的に解決している。自動運転バス12路線に加え、ルートから離れた地域も無人タクシー15台が運行し、高

齢者は割引運賃で気軽に利用できる。自動運転バスは、画期的な「ルート沿い自由乗降システム」により、バス停以外の安全な場所でも乗降可能だ。「免許を返納しても行動範囲が広がった」と語るYさん（62歳・女性）。外出頻度は2倍に増加し、新たに絵画教室に通い始めた。

Topic 03 シニア就業率全国1位

岐阜市の前期高齢者の就業率が42.3%で3年連続全国1位となった。マッチングアプリ『匠match』により、趣味や経験を活かして地元企業と1日単位で働くスタイルが定着している。

「趣味の料理を活かして、若者の運営する店で仕込みをサポートしています。自分のペースで働けるので無理なく働けます」とSさん（73歳・男性）。週3日勤務をしながら地域ボランティアにも参加している。



Topic 04 柳ヶ瀬再生完了 3世代交流の聖地に



かつて、シャッター街となっていた岐阜市の柳ヶ瀬商店街が、多世代交流の拠点として見事な復活を遂げている。2038年にオープンした複合交流施設『みんなの柳ヶ瀬』は年間利用者数が50万人を突破した。成功の要因は、子どもから高齢者までどの世代でも楽しめる施設となっている点だ。また、空き店舗を活用した『チャレンジショップ』制度では、シニアが講師を務める伝統工芸の体験型クラフト教室や、若者が運営する週替わりのシェアキッチン&バーなどが人気を集める。

「孫と一緒に毎週通うのが楽しみ」と話すのは、市内在住のGさん（68歳・女性）。施設内の図書コーナーで孫に読み聞かせをした後、チャレンジショップで若者の新しい感性に触れながら、岐阜の昔話を語り聞かせるのが定番だ。